

平成29年度 第2回精華町総合教育会議 議事録

1 開 会 平成29年12月26日(火) 午後1時30分

閉 会 平成29年12月26日(火) 午後3時15分

2 出席構成者 木村精華町長 太田教育長 松本教育長職務代理
中谷委員 新司委員 岡島委員 (欠席構成員なし)

3 出席事務局職員

岩橋総務部長 浦本総務部次長 大原企画調整課長

山崎企画調整課企画係担当係長 岩前健康福祉環境部長

岩崎教育部長 北澤総括指導主事 竹島学校教育課長

仲村生涯学習課長

4 傍聴者 なし

5 会議の概要

(1) 開会

総務部長から第2回総合教育会議の開会を宣言

ー町長あいさつー

○木村町長

平素は精華町の教育、あるいは行政全般にわたりまして、様々な面でご理解、ご協力いただき、この場をお借りいたしまして、お礼を申し上げます。

さて、先の12月議会でご報告のあった環境関係や音楽関係のコンテストなど、全国規模の大会で輝かしい成績を収めてくれた子どもたちの成長を見て、私も住民の1人として大変誇らしく、未来を担う子どもたちの大切な命と希望を未来につなぎたいと改めて認識させていただいたところでございます。

本日は教育委員の皆様と意見交換を行うことで子どもたちの健やかな成長と住民皆さんの生涯を通じた教育などを行うため、特に重点的に進めねばならない地域教育の課題やあるべき姿を共有して、ともにより良い方向に進めてまいりたいと考えております。どうか本日の会議が有意義なものとなりますよう、活発なご議論をお願い申し上げまして、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。よろしくお

願います。

－教育長あいさつ－

○太田教育長

小中学校も冬休みに入り、今年もあとわずかということになりました。1年間振り返ってみますと様々な出来事があったわけですが、一番の懸案でありました空調設備の整備について中学校の工事が完了いたしまして、本日竣工したというところでございます。これで長らく議論がありました学期制につきまして、3学期制への円滑な移行の要件が全て整ったということでございます。引き続き小学校空調設備整備工事の着工、さらにその次の課題となっております中学校給食につきまして、町長みずから先頭に立っていただきご尽力いただいていることにつきまして、この場をお借りして、感謝を申し上げます。

ところで、最近の報道を見ましても、いじめによる悲しい事象が後を絶ちません。精華町においても、このような悲惨な事態が起こらないよう緊張感を持って取組を進めており、幸い精華町の子どもたち全体としては安定した学校生活を送っているのではないかと考えております。

しかし、貧困問題、あるいは児童の虐待といったような今日の社会問題というのは、決して本町も無縁ではございません。

さらに今年は教職員の過重な勤務実態を改善するため、教職員の働き方改革という課題もございます。本町でも勤務実態について調査をしたわけですが、時間外勤務が小学校で平均80時間以上、また中学校では100時間以上というデータが出ておまして、この解消に向けての実行ある取組が求められております。

社会教育に関連しては、住民のスポーツ文化拠点となっている、むくのきセンターをはじめとした体育施設を引き続き体育協会へ指定管理することに決定しました。この間、議会で議論をいただいたわけですが、施設の一層の充実を図ることが、いま課せられた課題ではないかと考えております。

ところで、本町の教育委員会が新しい制度のもとに移行して1年が経過しました。そのような中で活発な教育委員会の運営に、我々としても努力をしてきたわけですが、この秋以来、全小中学校、図書館、社会体育施設を訪問し、こういった問題を全員が共有して実態の把握に努めてきたところです。

今日は新しい年度に向けての教育にかかわる重点施策について、率直な意見交換ができればと思っています。また町長の教育委員会に対する忌憚のないご意見、ご指摘を賜れば幸いです。本日の会議が有意義なものとなりますよ

うにお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。よろしく申し上げます。

(2) 教育施策について

－今回は調整事項がなく、報告と意見交換のみのため、設置要綱第4条に基づき
司会は引き続き総務部長が行う－

－報告－

学力向上の取組について

○北澤総括指導主事

学力向上に関連して、教育委員会と町立学校教職員で組織している学力向上総合推進委員会が京都府学力診断テストの結果について分析を冊子にまとめ、それを授業に生かすという取組を行っており、本日はその冊子をもとに取組を説明します。

構成については、正答率の低い問題の分析や、質問紙調査から見えてきたことなどを中心に分析し、質の高いわかる授業を目指してということでもとめております。

小学校版は4月に実施された国語と算数のテストになります。なお、中学1年生のテストは4月実施となり内容は小学校の学習内容となっています。中学校版については学力診断テストが10月に実施された関係で現在、分析中です。

小学校版の分析については、子どもたちが苦手とする問題を分析し、先生方が授業で生かすことができるように工夫して作成しています。

一例ですが、小学4年生の国語で修飾語に関する正答率が京都府平均より低かったこの問題での授業改善のポイントとして、3年生で学習した後、他学年では、修飾語を学習する単元がないため、各学年の指導計画にこの修飾語の学習を位置づけて、系統的、継続的に学習に取り組む必要があるという内容が示されています。精華町では修飾語について課題があるという結果が出ているため、全ての小学校で校内研修会を活用し、すべての教職員が認識できるよう取組んでいます。

また、改善に向けての指導アイデア例として、授業改善のポイント、進め方を黒板にこのように書いて、このような説明を行えばよいなど、具体的に例示しており、子どもたちの学力向上に合わせ、教師の授業力アップ、つまりは人材育成にも活用しているところです。また、質問紙調査においても学力結果とそのアンケートの相関関係を分析しております。

代表的なものとして紹介しますと、学校以外での学習時間がどのくらいかという質問の中で、テストの正答数が多い順にA層からD層まで4段階に分類して各層でどれだけ学習しているかを分析しています。A層では家庭で2時間以上学習してい

る児童が40%に近く、D層では13%程度で、その差が大きいということがこのグラフから読み取れます。

この結果から家庭学習については、低学年では習慣づけ、また、中学年、高学年では授業の補いや、中学校への進学を見据えての家庭学習の習慣づけが大切だと教師への指導ポイントを記載しています。

最後に、「質の高いわかる授業を目指して」の中では、全ての教師が自らの実践に生かすべき内容としてまとめられています。これについても校内研修会等で共通確認を図るようしております。このような分析を授業で生かす取組として続けております。

— 意 見 —

○松本教育長職務代理

平成19年度から学力向上総合推進委員会を組織して、毎年このようなすばらしい資料を作成され、学力向上のための取組を積み重ねていることに、教育委員として誇りに思いますし、一町民としてもうれしく思います。

過去を振り返ってみて、他の教育委員会が学力向上についての冊子を作成して配布された事例を思い出しました。たしか学校関係者だけでなく保護者に対する提言にもなっており、大変すぐれた取組であったと記憶していて、集まっていたいた各市町村の山城管内の指導主事の先生方に、こういうことについて我々は学んでいきたいと思いたいというようなことを話したと思います。今回この冊子の説明を受け、学力向上についてより進化した分析と提言をしていると感じました。

まず府平均と比較して、正答率が上回っていても、精華町の児童・生徒の正答率が低いととらえた領域では、具体的に間違いが多い典型的な問題例について分析し、さらに教職員向けに授業改善のポイントや具体的方策についても示しているということが1つありました。

次に、この冊子で分析するだけでなく、今後の方向性について8つの内容が書かれておりますがどれも大切な内容だと考えます。その中でも周囲からの温かい愛情や信頼、期待を感じさせ、自己有用感を高めるということが基盤になると私は考えています。

これはお願いになるのですが、まず学校で、レベルの高いこの冊子が一層活用されるように指導をお願いしたいこと、そして児童・生徒の学力がますます充実されることを願っています。次に、保護者へは学力に関連した質問紙調査の内容を紹介することも検討してもらいたい。例えば児童が頑張ったことを認めることで自尊感情

や自己有用感を持たせる等々のところであります。加えて、全国学力学習状況調査の分析を見ると、中学3年生では3時間以上ゲームをしている割合が大体6人に1人ぐらいの割合であり、学習習慣の部分で疎かになっている子どもたちがいるということで心配しています。そういった内容もあわせて保護者のほうに知らせる、啓発することも検討していただきたいと思います。

○中谷委員

先ほど松本委員のおっしゃったように、この冊子、精華町学力向上総合推進委員会、小学校部会、このあと中学校部会でも出されるかと思いますが、この冊子について非常にすぐれたものだと改めて思います。

結果的に数値が出てきますけれども、これはいわゆる学校での学びの問題、それから家庭学習における問題など、様々な生活習慣等も含めた結果が正答率という形で出てくるのだと思いますので、質問紙調査の中でも詳しく見ていかなければならないと思います。また、町内のどの学校、あるいはどのクラスでも質の高い授業を受けられるということがとても重要なことだと思います。そのことが知育・徳育・体育に直結するものだと思うので学校の果たす役割は非常に大きいものがあると感じます。授業を進める際には、めあてを子どもたちに提示して、子どもたちに意識づけしないと学習意欲も喚起されません。それから自分の考え、そして友達との話し合い、そして最後は振り返りという授業の学習形態があるかと思います。これについては様々な学校の工夫があって良いとは思いますが、その基本的なパターンは精華町として確立していくことが必要だと思いますので、十分検証しながら実践していくということが重要ではないかと思います。

これは働き方改革とも関係すると思いますが、特に知育の面において教師の授業力を高めるという観点から、自分たちが持っている授業ノウハウを共有することが重要なことであると思います。また、学級経営のノウハウも同じことで、先輩に教えてもらったこと、今実際に自分が行っていること、失敗や成功例といったことも忌憚なく話していくことで、その結果、若い先生や学級経営で悩んでいる先生へのアドバイスや精神的な不安も取り除くことができるのではと思いますので、ぜひ学校のほうで取組んでほしいと思います。もちろん最後は精華町全体で教育財産の共有化が出来れば良いですし、そのためには例えば指導案なども町で共有していくことが、子どもたちの学力向上には大切なことではないかと思います。

最後に、学校訪問の際に中学校の授業のありかたについて気になることがあったのですが、どちらかと言えば小学校においては話し合い活動などを活発にされてい

ることがよく見られますが、中学校になれば、教師主導型、知識伝達型ということが多く見受けられます。主体的、対話的な活動が小学校に引き続きできるような授業形態になればさらに良くなるのではないかと考えています。

○新司委員

この学力診断テストの結果ですが、この冊子に示されたとおり、本当に詳細にまとめられていると思います。結果をもとに学校はどれだけできているか、またこの冊子が課題分析とモデル授業の進め方やポイントなどを詳細に示していただいていますので、教師にとって大変ありがたい資料になるのではないかと考えています。どこで子どもがつまづいているのか、原因を探る、この分析はかなり時間もかかっただろうし、先生方のこの学力向上推進委員会の先生方のご努力に本当に感謝しています。

1つ良いなと感じたのは、以前のこの調査の中学1年生の結果と小学校4年生時の結果から見て授業改善が図られ力がついているという報告を受け、大変喜ばしいことだと思いました。教育というのはすぐに結果が出てくるものではありませんし、先生方のご努力と日常の指導成果が、そういう結果をもたらしたのではないかなと思います。

それと中学1年生の質問紙調査について大変興味深く読みました。子どもたちが見通しを持って学習し、意欲を持って学んでいくということは、学力の定着には大切なことだと思えますが、その中でも自分の考えや意見を人の前でしっかり発表するという内容であるとか、他者の話を最後まで聞くというようなこと、そういうことはこれからの社会に子どもたちが出たときにも大切なことだと思えます。他者の話を最後まで聞くことによって集中力や読解力が身についたり、また対話とかコミュニケーション力の向上につながり、それが強いては学力向上につながっていくということもわかっておりますし、学校での学びは先生の話聞くことから始まるのではないかと考えています。その前にもっと子どもの話をしっかり聞いてやるということは小さいときから、幼児期から、家庭でそういう環境に置くことも重要ではないかと思うので、これだけ細かい分析をされているのですし、しっかりと家庭でも、この分析結果を生かしてもらうような手だてを考えてもらいたいと思います。

子どもたちは自分のよさをしっかりと分かっているだろうか。日本の子どもたちは自己評価において大変低いということが調査でも出ておりますが、何かができるから褒められる、自分は大事にされるというのではなく、自分のありのままの姿を大切にしてもらうというような、そういう環境をつくっていったらいいなと思

ます。このままで良いんだという自己肯定感を向上させるために、それぞれの、家庭では家庭での子どもへの関わり方、また学校教育の中では先生たちが本当にきめ細かい授業の進め方をしていただきながら、学ぶ喜びと、それから自分はこれでいいという子どもたちへの自己肯定感を伸ばしてやる教育を進めていってほしいと思います。この冊子が先生たちはもちろんのこと、家庭でも活用され、「せいか授業スタンダード」がしっかりと確立するよう期待したいと思います。

○岡島委員

私の下の子どもが4年生で、昨日この冊子を見せて、この「ゆらゆら」はどこにかかっているのかと聞くと、答えてくれたのですが、じゃあこの「ゆらゆら」は何と言うの、どういう言葉なのと聞くと「修飾語」という言葉が出ず、知っているが修飾語と繋がっていないところがありました。先程の報告でも精華町では学習課題について学年を越えて取組む説明があり、そういうところでも学力を付けていってくれる環境が整っているのだとうれしく思っています。また、どの先生が担任になってもこのような冊子があれば、同じようにポイントをきっちり押さえて子どもたちに重点的に教えていただけるというのは、本当に親としてありがたいなと思います。

中学1年生の質問紙調査で学校以外の読書時間という項目がありました。勉強以前の問題かもしれませんが、本に触れ合うところから読解力が向上すれば学習活動につながっていくのだと思っていますので、やはり小さいころから読み聞かせるような環境があると良いのではと感じています。図書館でもお話会など子どもが本と触れ合う機会も提供されていますので、そういった取組にもっと町民の方も関わっていただけるようになれば良いのではと思いました。

精華町の先生方は本当に熱心に子どもたちと向き合っておられるので、小学校の保護者の方も学校をとて信頼されています。先生方の働き方改革で、どんどん働く時間が長くなっているという心配はありますが、子どもたちのために教材研究していただけて本当にありがたいと思いますし、そのために教育委員としてできることがあれば、しっかりやっていきたいと思います。

○太田教育長

平成19年度からこういった活動を始めましたが、当時を思い起こしますと、全国学力学習状況調査が始まった時には様々な議論がありました。その時にどのように子どもたちの学力を伸ばせばいいのか精華町でも議論して、今お話になったような活動を始めたわけです。この「学力向上総合推進委員会」という「総合」をつけ

たのはそのような意味がありました。

学力を上げていくというのは、やはり小さいときからの積み重ねが非常に重要ですし、学校も安定していなければならない。また、学級経営がうまくいってなければならない。先生と子どもたちとの信頼関係が良好でなければならない。こういったベースがあり、その上で初めて学力というのが積み上げられていくのではないかと思います。生活状況調査などのデータも重視しながら進めてきたわけです。

この分析は各校の教務主任の先生方が中心となっているわけですが、各学校で様々な意見を取りまとめ、ここにあるような分析をみんなで議論しながらまとめていくことで、先生たち自身の力量も上がってくるということもあろうと思いますし、さらに各学校へ成果を返すことで先生方のものになっていくというような効果もあったのではないかと考えております。

しかし、全ての先生たちにその認識が共有できているかということ、まだまだ課題もあると考えておりますので、そういった点はもっとこれを広げていくということが大事だと思っています。

それから、町民の皆さん、あるいは保護者の皆さんに、こういうことを通じて何が解るのかということを知ってもらうことも重要だと思います。今もお話しに出ましたが、家庭へ返していく、地域へ返していくということが大事だというふうに思っています。毎年、広報誌で分析結果も掲載しているわけですが、例えばそれに対して抗議が来たとか、あるいは意見があったなど、記事についての反応は残念ながらありません。どうしても話が固くなるというか、読みにくいというのがあるのだと思います。保護者向けの懇談会や学校でのきめ細かな広報活動など、家庭の皆さんにどのように返すかということも課題だと思っています。

○木村町長

まず、学力向上総合推進委員会という協議の場において、学力テストの結果をこれだけ踏み込んで分析・公表されていることに、私も大変うれしく、誇りに思います。精華町の教育はこうだと知ってもらうことで、保護者や住民の方にもより一層支えていただけるのではないかと、私は何らかの形でこういう取組に対してもいろんな場面で報告をしたいと、このように思います。

知・徳・体、このバランスがいかに大事か、そして教育は学校現場だけではなく、やはり家庭のあり方、家庭がどういう役割を果たすのか、子どもの教育は全て学校に任せるといったようなことがあるならば、徹底してこの議論はすべきだと、その責任は我々行政にもあると、このように私は思っています。先ほどもお話があり

ましたが、人の話をしっかり聞き、そして自分の考え方を堂々と人に訴えていくという、そういう教育も私は大事なことだと思っています。皆さんからご指摘いただいたその内容についても、私は私なりに、非常に感銘をしながら聞かせていただきました。やはりこういう総合教育会議を発足して運営していくなかで我々行政にも大きな責任があると、そういうことをしっかりと確認をさせていただきました。

それから多くの町民の皆さんにも報告させてもらっているのですが、平成25年1月1日から第5次総合計画がスタートして5年を経て、来年は折り返し地点です。この5年を振り返ったときに、教育関係の名誉ある受賞、あるいは周りから高い評価をいただいたというのは、10件くらいあるわけであります。それは学校の現場だけではなく、地域社会が学校教育といろんな関わりを持っていただいた結果であり、その人と人との関わりの中で今日の精華町があり、精華町の教育行政がここにあるということを改めて確認をさせていただきましたし、これをしっかり受け継ぎながら、新たな挑戦をしていく、そして知・徳・体のバランスのとれた人材をしっかりと育てていくということが私は大事ではないかと、こういうふうに思っています。

－意見交換－

教育に関わる重点施策

○松本教育長職務代理

学校訪問を終えての第一印象は、どの学校も比較的安定した状況だったということでした。学校というのは、やはり授業も行事も落ちついた環境の中で教育活動を展開することが大切です。教育委員会事務局の指導もありますし、校長先生を中心に、先生方が児童・生徒へ丁寧に指導されていると感じました。加えて小学校や特に中学校は学校地域支援本部事業で地域ボランティアの活躍を聞かせていただき、精華町が誇れるような取組であると感心しています。

今回の学校訪問の目的は、1つには学校における働き方改革に関して実態を知って超過勤務の改善の取組についてその状況把握を行うことでした。その中で特に私は中学校にいたこともあり、中学校の部活動に対する人的配慮が必要だと感じています。

人的配慮というのは、具体的には部活動指導員の配置ということであります。これについては教育委員会事務局が6月から1か月間の調査を行った中で、中学校の部活動に焦点を当ててみますと、部活の顧問の超過勤務の時間が中学校全体平均の約100時間を超えています。また、校長や事務職員、養護教員なども含まれると

思うのですが、部活動をしている先生はしていない先生の2倍ほどの超過勤務になっています。そういう状態の中で、京都府は府立学校に対して部活動における休養日について中学校では土・日曜日を含む週2日以上を設定するよう通知を出しており、精華町教育委員会でも府教委から通知を受け、部活動における休養日について11月から試行して来年度から本実施するよう町立学校長に通知しています。

それから国の動きでは、中央教育審議会の学校の働き方改革特別部会において平成30年度の概算要求が発表され、その中で部活動の指導員の配置促進として新たに15億円が要求されているということでした。

部活動指導員は、これまでの運動部活動の外部指導員と異なって、引率も可能だと言われていますが、具体的なことは年が明けてからはっきりしてくると思われま

す。

部活指導員の配置には3点ほど条件や前提があると思うのですが、1つには部活動指導員の資格、それから勤務時間、あるいは具体的な活動範囲等がはっきりしていることがまず条件だろうと思います。2つ目には部活動指導員の配置を希望する学校があることがまた前提になるだろうと思います。3つ目には、候補となる人物が部活動指導員にふさわしい人であること。教育は人なりと言いますが、それが条件になるだろうと思います。こういった前提や条件をクリアした上で配置を希望するというのが私の思いであります。いずれにしましても、部活動指導員の配置は教職員の超過勤務の軽減には必ずなっていくと思いますし、同時に特定の部活動の生徒だけでなく、教職員が個々の生徒と向き合う時間の増加にもつながるというふうに考えます。このことはとても大切な課題だと考えますので部活動指導員の配置についての財源措置を含めた条件整備をお願いしたいと思います。

○中谷委員

私のほうからは、学校トイレについて3点お話ししたいと思います。

まず1つ目に、本年度、トイレの修理対策ということで、薬剤配布を行い、夏には、業者による床掃除をしていただきました。これらの対策は非常に効果的なものであって、非常によかったなと思っております。

次に2つ目は、トイレの洋式・和式という点です。子どもたちは1日の約3分の1程度を学校で過ごすことになります。生活様式の変化から徐々に洋式化しているのが現状ではないかなとは思いますが、もう一つは、災害時における避難所としての果たす役割があるだろうと思います。少し調べますと、熊本地震が発生して、地震直後に学校や体育館で避難を余儀なくされている方々を対象に学校トイレの研究会

という任意の団体ですがアンケート調査を実施されており、一番不便に思ったことは何ですかという調査があったようです。食事や衣類など、いろいろなものがあるだろうと思ったのですが、それを大きく引き離して、第1位がトイレということでした。ではそのトイレについて困ったことは何ですかとの答えで、和式が多かったという調査結果が出たそうです。

災害時における避難所の果たす役割として、洋式か和式かとなれば、現実には高齢者、あるいは障害者の方々が長期に余儀なくされるだろうと思われそうですけれども、そうなったときには和式よりも洋式のほうが良いのではないかと。現実には、被災された石巻でも小学校が洋式化されていて、非常に助かったという事例もあったそうです。ただもう一方で中学校に進級すると、女の子は便座に腰掛ける洋式が嫌だという傾向もあるそうです。このあたりの洋式化の割合などは子どもや保護者のほうにも聞く、あるいは先進事例を確かめるなど、様々な調査に基づいて検討しながら進めてもらいたいと思ったところです。

3つ目は、学校トイレの研究会の全国的な事例を見ていると京都府に1事例あってそれがうれしいことに川西小学校の記事が載ってまして、その好事例として、汚れにくい床の素材が使用され衛生上好ましいということでした。学校トイレについては洋式・和式、いろいろと議論されると思いますけれども、それと併せて管理面や衛生面など様々な問題を丁寧に聞き取りながら進めていってほしいなと思いました。

○新司委員

私は図書環境の整備について2点、町立図書館と学校図書館のことについてお話しさせていただきます。

まず、町立図書館ですが、本当にたくさんの方が借りに来てくださっており、活用されているなということを目の当たりにして、とてもうれしく思っています。しかし、今の町立図書館が建設されてから随分と年月が経ちましたので、少し施設面での傷みも目立つところもあり、それはなかなか職員の努力だけでは改善できない問題もあるように思います。例えば視聴覚コーナーのソファの椅子ですが、大きく破れているのが目につきます。図書館の方にお話を聞きますと、ボランティアの方が修繕してくださっているようなのですが、根本的な部分は難しく予算をかける必要もあるかと思います。また、規模に見合った図書館司書の適正配置について、様々な事業を行っておられる図書館運営には欠かせないものと思いますので、引き続きこのあたりの継続や充実ができればと思っています。

次に学校図書館ですが、学校訪問をしました際にこんな図書館にいたら何時間でもいたいなという思いが持てるようなすばらしい環境で、子どもたちがこういった環境で図書に触れるというのは、とても幸せなことだと思いました。

また学校図書館司書のかたは、限られた時間のなかで本当によくお仕事をしてくださっているようです。それぞれの学校で児童の図書に対する興味関心が高まってきたとか、それから図書ボランティアとの連携をされていたり、図書活動が充実しているということを訪問に行き知ることができました。

図書館というのは学校教育において本当に大事な施設の1つであると思います。図書館の活用の仕方というのは、ただの読書活動だけではなくて、読書センターとしての機能が学校の中であるということなんです。児童・生徒の学習や先生方の指導においても情報提供したり、授業内容との密接な関係の中で図書館の存在意義があります。

またこの情報化社会の中でたくさんの新しい情報を提供していくという面においても図書館というのは大いに力を発揮されていくところだと思うのですが、様々な役割を持った図書館が今後もうまく経営できるように財政面での支援をお願いしたいなと思います。一旦本を入れたら、これが永久的に使えるのではなくて、人気のある図書は傷みも早いですし、それを補充していくという面からも、また備品なども学校の中で傷んでくるものについては適時替えていくという、そういうことも必要だと思います。子どもの読書環境、学習センターとしての図書館環境を、これからも充実させていってやりたいと思いますし、それが強いては読書好きな子、学力の向上につながる図書館の利用ということになると思います。

○松本教育長職務代理

図書館司書については同じ思いなんですけど、意見がありますので、ちょっと聞いていただきたいと思います。

図書館を昼休み開けていない学校の例ですが、教職員全体で生徒を見守るために、もうしばらくはこの状態を続けざるを得ないという状況であるとのことでした。しかし、学校図書館司書は教科や生徒に必要な図書を購入したり、図書館の本の整理をしたり等々、学校の教職員ではできない専門的なことで活躍をしてもらっているということでした。

私も実は新米の校長として赴任した年に、図書館担当の教職員から図書が数冊なくなつたという事象の報告があり、生徒指導上の問題から図書室を閉めて対策を考えましょうという指示をしたことがあります。町内の学校ではそこまではなってい

ないのでしょうけれど、経験も含めてそういう事情も良くわかるので長い目で見ていただきたいというふうに思います。

○岡島委員

私は小学校の空調設備についてお話しさせていただきます。

中学校の空調を実現していただきまして、本当にありがとうございます。これにより今まで2学期制だったところが3学期制に戻るということで、子どもたちにとってはテスト範囲が狭くなったり、部活動の試合日程をほかの市町村とうまく組み合わせたりという問題で、本当に子どもたちにとってありがたいことだなと思っています。

これに引き続きまして、小学校のほうの空調設備もお願いしたと思っています。

小学生は本当に活動量が多く、中間休みや昼休みやなど休みがあればすぐ外に出て体を使って元気に遊んで帰ってきて汗だくということが本当に夏場は毎日あります。うちの子どもも男の子ですので、毎日頭から湯気を出して外で遊んだりしているのですが、そういう暑い中での授業ということで集中しにくいところがあります。

そのためにミストによる対策、グリーンカーテンや扇風機などを活用していただいているのですが、やはり教室の中に多くの子どもがいますと本当に湯気が出ているのではというぐらい暑くなります。

授業参観に行きますと、暑い中ですが誰1人下敷きであおいだりせずにその中で授業を受けているのですが、少しでも体感温度が下がればもっと集中して先生の授業を聞くことができるのではと思います。

ただ、空調整備にはとてつもない財源が必要ということで、本当に簡単にはいかないと思うのですが、子どもたちのためにぜひとも実現していただけたらありがたいなと思っています。

○太田教育長

学校や社会教育現場を見ていただき、率直なところでの発言であったと思います。財源問題があることは十分に承知しておりますし、そういった中での町政ということも十分理解いたしておりますが、引き続きこういったことが少しでも前進できればと思っています。

それから、学校給食についても町民の皆さんの関心は深いだろうと思っております。しかし、実施までに例えば中学校での昼食実施時間の確保をどうするかというようなことが、生徒指導の問題とも絡まってこれもなかなか困難な問題があるわけですが、こういったことについては早く我々としては取組まなければならな

いと考えており、そういう教育議論を始めているところです。とりわけ今年度は学校給食基本構想について原案ができて、12月議会でも報告させていただいたのですが、いよいよこれからパブリックコメントという段階まで来ております。これがまとまった段階で次回の総合教育会議で意見交換させていただき、良いものにしていきたいと思っております。これは次回のテーマになるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それから、学習指導要領が平成32年度から、小学校を皮切りに改定されていきます。この中では、道徳の教科化の問題であるとか、小学校の外国語活動が三、四年生に、それから五、六年生では教科として英語導入というように大きく変わります。そのほか学習指導要領に示している教育原理に沿って、教育活動を進めていくことが必要になってまいりますので、具体的なお話は今日はいたしません。こういった点でも我々としても十分に指導性を発揮してやってまいりたいと思っておりますし、その点での、またバックアップをお願いできればありがたいと思っております。

○木村町長

それぞれ委員さんから切実な、あるいはこれを何とか今切り開いていかないと、という提案もいただいて、私も思いは共有させていただいているということであります。

しかし岡島委員からもありましたが、財政上のこともあるでしょうし、というのを二度、三度言っていただきましたけども、まさにそういうことでもあります。しかし、こういう状況の中で精華町がなぜいろんな取組ができたか。これはまさに職員の頑張り、そして住民の皆さまから、我々にできることからやろうかという思い、結果的には精華町のボランティアの人数が5,420人にも膨れ上がったと、これはもう住民の皆さんのおかげであります。やはり大きな社会の支えの中で今日があるわけでもあります。様々な角度から、また応援をいただいたらうれしいなど、このように思っておりますので、これからもただ今おっしゃっていただきました意見を、非常に重要な課題として、全力を上げて取組ませていただきますので、よろしくお願いいたします。

○岩橋総務部長

年明けには新年度予算編成の時期を迎えますので、今日いただいたご意見は重要な参考意見という扱いで、取り扱いをさせていただきたいと考えています。次回は年が明けて3学期の期間中での開催となります。

これをもちまして、平成29年度の第2回総合教育会議を終了いたします。どう

も本日はありがとうございました。